

『あたりまえ』を作り上げること」

関西学生卓球連盟 幹事長 谷山諒太

この度は、第15回日学連アゴラにおいて文章を掲載していただき、誠にありがとうございます。拙い文章ではございますが、ご一読いただけますと幸いです。

いつも綺麗に保たれている道路、時間通りに走っている電車…私たちの身の回りには、様々なあたりまえがあります。しかし、それらは自然とそうなっているのでなく、すべて人が作り上げているものであるということをわざわざ考えることはあまりないと思います。私が学連の仕事をし始めて一番変わったことは、身の周りの「あたりまえ」の裏側に視線が向くようになったことです。

その中で、「毎年この時期にこの試合が開催される」、「試合会場に行けば卓球台が並んでいて、自分の順番が回ってきたら試合をする」というような、選手にとってのあたりまえを作り上げているのが私たち学連です。

私は中学生から卓球を始め、大学生になるまでの6年間選手としてプレーしてきました。大学も卓球部に入部し、1年生の秋から学連の幹事になりました。初めて大会運営という立場を経験しましたが、最初は1つの大会を作り上げるためにこなさなければならない作業の多さにとても驚かされました。また、朝イチで会場入りし、試合が終わって選手・観客が帰るまで自分たちも残る、という運営の流れに最初は体がついていきませんでした。正直、個人的には試合をするより疲れます。

しかし私はこの経験から、一つの「あたりまえ」を作り続けることのすごさ、難しさを学びました。会場の広さや関係者からの意見などさまざまな要素がある中で、目の前で試合を繰り広げる選手がその時々最大限のパフォーマンスを引き出すためにはどのような試合環境を作ればよいかを考えながら大会運営をすることは難しいですが、私はその中で多くの学びを得ることができたと感じています。そして同時に、普段の生活における身の回りの「あたりまえ」を作ってくれている人々に対してより一層感謝の心を持つことができるようになりました。

このような学びを得る機会を与えてくれた学連に感謝し、これからも「あたりまえ」の生活が続くことへの感謝を忘れずにいたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました。